

国立病院機構熊本医療センター

No.149



# くまびょうNEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所  
国立病院機構熊本医療センター  
〒860-0008  
熊本市二の丸1番5号  
TEL (096) 353-6501(代)  
FAX (096) 325-2519

## 平成21年度第1回(通算第27回) 開放型病院連絡会開催される

平成21年度第1回開放型病院連絡会は、登録医の先生方をはじめ看護師、MSW、事務の方なども含めて多数の皆様に参加していただき、10月5日午後7時より新築になりました当センター内の地域医療研修センターホールで開催されました。連絡会に先立ちまして、午後5時30分から新病院の見学会を行い、多数の皆様の参加をいただきました。

連絡会では、開始に当たり、池井院長がご参加の皆様にお礼を述べた後、新病院完成の報告、診療科の増設（これまでの25診療科を細分化して32診療科）、医療設備及び診療機能の拡充、旧病院の取り壊し、駐車場整備の工事予定につきご説明しました。また本年7月23日、24日の両日に、熊本市市民会館、国際交流会館、パレアホールを会場として第59回日本病院学会を本院が主催（会長：宮崎久義名誉院長）し、盛況のうちに無事終了したことのご報告とご協力の御礼を述べました。続いて、開放型病院運営協議会委員長の熊本市医師会長福田稔先生よりご挨拶をいただきました。福田先生は、新病院完成の祝辞を述べられ、さらにこの開放型病院の意義と、益々開放型病院の先生方と本院の病診連携が進むことを希望される旨お話しいただきました。続く全体会議では、熊本市医師会理事の田中英一先生と私が進行を担当し、新病院の紹介、1) 放射線科について、吉松俊治医長；CTはSIEMENS社製128列など2台から3台に増設し、放射線治療装置は

リニアック、ラルストロンともに最新式のものに更新しました。2) 救命救急センターについて、高橋毅部長、救急救命センター病棟は34床から44床になり、外来施設・設備とも大幅に拡張されました。さらに、地域医療連携室室長の片渕茂外科部長より、新病院での共同診療の手順などにつきましてご説明致しました。最後に、熊本市歯科医師会会長清村正弥先生より、当開放型病院における歯科医師会との密接な連携についてのご挨拶をいただき、全体会議をまとめていただきました。前回に続き医師以外の方の参加者も多く、大変実りの多い連絡会になったものと思われます。この会の成果として、病病・病診連携がさらに充実しますことを期待しております。（副院長 河野 文夫）



福田稔委員長のご挨拶

### 基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、  
良質で安全な医療を目指します。

### 運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営



「これからもよろしく願います。」

医療法人

熊本けやき通り歯科医院

理事長 西村 幸郎

日頃より、国立病院歯科口腔外科の諸先生方には、悪性腫瘍、水平埋伏抜歯など、一般開業医で対応の難しい部分を助けていただき、感謝しております。けやき通り歯科医院の院長の西村と申します。

また、レントゲンでは通常の歯根に見えても、癒着や離開等があり、普通の抜歯と思い、難抜歯になり、長時間格闘したあげく、抜歯ができずにもお願いしたこともあります。

通常の患者様を診ながら、そういった難しい患者様を快く引き受けていただき、有り難いです。

さて、当院の紹介をさせていただきたいと思います。

平成10年2月に田迎のけやき通り沿いに、けやき通り歯科医院として開院し、昨年開業10周年を迎え、そして医療法人熊本けやき通り歯科医院となりました。

開院当時、スタッフ2名と私と妻の副院長と4人で始めた小さな診療室でした。患者様に育てられながら、徐々に規模が拡大し、現在では、歯科医師3名、歯科衛生士6名、受付2名、トリートメントコー

ディネーター1名、歯科助手2名、保育士1名、クリーニングスタッフ3名の総勢18名の大所帯となっております。

診療内容は、病気になるてからの治療より、まずは予防からと、2度のフィンランドトゥルク大学研修で学んだことをベースに予防歯科に力をいれ、一般歯科、小児歯科、インプラント、そして矯正学会認定医による歯科矯正と多岐にわたっています。

子どもさんを中心にご家族で来院される方が多く、とくに妊娠時(マイナス1歳)からのむし歯予防は、お子様のむし歯のリスクを減らすということから、力を入れています。

また、小さい子どもさんをお持ちのお母様達の中の環境が、お子様のむし歯の発生率に影響するというフィンランドで学びました。しかし、なかなか歯の治療は、お子様が小さいと受けることは難しいと言うことで、常勤の保育士による託児を行いながら、お母様方の治療を行うことで喜ばれています。

これからも、高い外科技術をもった国立病院歯科口腔外科のサポートを頂きながら、地域に根ざした治療を行い、貢献して行きたいと思っております。どうか、よろしく願います。



患者様もメンバーも幸せになれる医院をめざして

## 第15回 国立病院機構熊本医療センター-医学会の開催と演題募集のご案内

第15回国立病院機構熊本医療センター医学会が2010年1月16日(土)に国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センターにて開催されます。例年通り病院全体の職種が参加し発表します。開放型病院登録医の先生方にも是非ご発表頂きたく演題募集をさせていただきます。詳細は、当院ホームページ(<http://www.hosp.go.jp/~knh/>)をご参照下さい。多数のご参加をお待ち致します。

抄録提出締切日：2009年12月4日(金)

お問合せ・送付先 〒860-0008 熊本市二の丸1-5

国立病院機構熊本医療センター医学会実行委員 臨床研究部長 芳賀 克夫

TEL：096-353-6501 FAX：096-325-2519 E-mail:scott@kumamoto2.hosp.go.jp

# 新病院施設紹介〈1〉

## 救命救急センター

2009年9月22日に国立病院機構熊本医療センターは新病院での診療を開始致しました。引っ越しの際は合計1日半の間、救急車の受入ができず、医療機関、消防機関をはじめ多方面にご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

本院は創立139年目、国立病院になってから64年目、国立病院機構になって6年目にあたります。また本日ご紹介致します救命救急センターは認可されて7年目になりますが、救急医療センターで発足した時からすると42年目になります。

写真でご紹介致しますように、新救命救急センターは明るくて広く、外来病棟を合わせて700坪ございます。病床は院内ICUの6床を含め50床あり、災害時には100床対応可能となります。高度に充実した医療機器を数多く配備し、最新の医療技術を導入して、熊本県の3次救急医療、集中治療の中核病院としての責務を推進するとともに、新たな治療法の開発に向けての臨床研究を全国にむけて発信しています。

(救命救急・集中治療部長 高橋 毅)

### 3次救急外来入口



### 第1初療室



### 救命手術室



### 救命病棟



### ICU

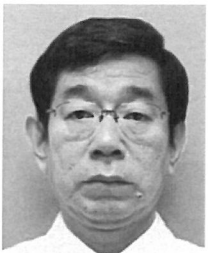


### 高気圧酸素治療室





**部長**  
**三森 寛幸**  
婦人科悪性腫瘍  
日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医  
日本臨床細胞学会専門医  
日本産婦人科学会専門医  
日本がん治療認定医機構認定医  
日本臨床細胞学会代議員  
日本婦人科腫瘍学会評議員  
熊本大学非常勤講師  
母体保護法指定医



**医長**  
**西村 弘**  
婦人科悪性腫瘍、産婦人科一般、  
周産期、生殖内分泌  
日本産婦人科学会専門医  
母体保護法指定医

### 診療内容・特色

当科は、婦人科悪性腫瘍の診断治療を重点目標に診療を行っており、科学的根拠に基づいた標準的治療を実践しています。婦人科悪性腫瘍患者数は九州でもトップクラスです。婦人科入院の7～8割は悪性腫瘍症例で、個々の症例に対しては、患者様及びご家族の意志を尊重した治療の選択を第一に心がけています。手術症例では正確な進行期分類を行い、個々の症例に応じた必要で十分な術式を決定した上で執刀し、また進行症例に対しては手術療法、放射線治療、化学療法を用いた集学的治療を実践しています。また近年、手術後(治療後)のQOL向上が重視されており、当科においては、術後リンパ浮腫や広汎子宮全摘後の膀胱麻痺などに対して様々な工夫を行い、取り組んでいます。また産婦人科一般診療、救急医療に対しても常時対応しています。

### 外来診療

月	火	水	木	金
三森 寛幸 西村 弘 永井 隆司	三森 寛幸 西村 弘 永井 隆司	手術日 (新患のみ)	三森 寛幸 西村 弘 永井 隆司	手術日 (新患のみ)



**医長**  
**永井 隆司**  
婦人科悪性腫瘍、周産期、  
鏡視下手術  
日本産婦人科学会専門医  
母体保護法指定医



**医師**  
**高木 みか (休職中)**  
産婦人科一般  
日本産婦人科学会専門医

### 診療実績

当科における婦人科悪性腫瘍の、代表的な3疾患(子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌)症例の新患治療患者数は、毎年150-170例あり、1974年から現在(09年9月)までの総数は4,124例となりました。子宮癌では、最近の傾向として頸部浸潤癌の比率が減少し、上皮内癌(0期癌)と体癌の増加が見られます。子宮頸癌に対しては、初期癌(0期、Ia1期)の場合、原則として、縮小手術(円錐切除術)を、Ib期とII期までの浸潤癌では広汎性子宮全摘出術を(術前NACを含む)、III、IV期では放射線治療および抗癌剤化学療法を、さらに化学療法同時併用放射線治療も積極的に施行し治癒率の向上を目指しています。

子宮体癌に対しては、原則手術療法を行いリンパ節郭清の範囲は、骨盤リンパ節から膨大動脈リンパ節まで、縮小手術の可能性を検討し、症例ごとに術中所見も参考にして決定しています。また、手術後(治療後)のQOL向上に対する実際の試みとして、術後リンパ浮腫軽減目的でリンパ郭清後の腹膜非縫合、鼠径上リンパ郭清の見直しにて、術後のリンパ管炎、リンパ浮腫の発生頻度の減少がみられ、また広汎子宮全摘術の際には、可能な限り骨盤神経温存術式を行い、その結果、術後の膀胱麻痺がかなり改善され、神経温存非施工例に比べて、術後の残尿測定期間が1/2から1/3に短縮されています。

(前ページより)

## 研究実績

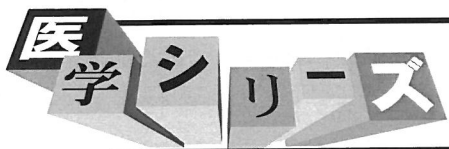
悪性腫瘍の蔓延様式の解明は根治手術術式を決定する上で重要な事項ですが、婦人科領域では子宮頸癌ではかなりのデータがありますが、子宮体癌、卵巣癌ではその蔓延様式は詳細には解明されておらず術式選択においても標準化が不十分です。当科では子宮体癌、卵巣癌の後腹膜リンパ節郭清症例を用いて、リンパ行性転移の実体を解明し術式の標準化を目指しています。

## ご案内

現在、当科は前頁の4人(1名休職中)で診療を行っ

ています。外来は月、火、木は3人で担当します。火曜日の午後は周産期外来を行っています。水曜、金曜日は通常午前中から、根治手術を予定していますので、通常1名の医師で外来診療を担当します。手術は、予定手術を月曜日の午後、水、金曜日の終日にて行っており、週に6~10件を施行しています。その他、火曜日と木曜日の午後は放射線治療、カンファレンス、子宮鏡などの検査を行っています。また急患は24時間体制で対応しています。

放射線治療に関しては、12月より外照射(オンコア)およびRALS(腔内照射、イリジウム線源)装置を新設し、より安全で精度の高い治療が可能となります。

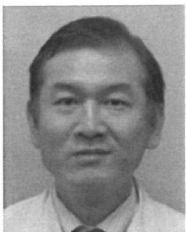


No. 165

## 臨床研究部 (No. 1)

### 最近のトピックス

#### インフルエンザ対策 「サージカルマスクの予防効果は N95マスクに劣らない」



臨床研究部長

芳賀 克夫

世界的に、新型インフルエンザA (H1N1) が流行していますが、最近アメリカ医学会雑誌JAMAから、「インフルエンザ感染の予防効果について、サージカルマスクはN95マスクに劣らない」という研究成果が発表されましたので、その内容を紹介します。この研究は、EBMのメッカとも言えるカナダのマクマスター大学から発表されています。著者であるMark Loeb氏は、看護師が日常診療を行う上でサージカルマスクとN95マスクのインフルエンザの感染予防効果を実験比較試験で検討しました。対象は、新型インフルエンザA (H1N1) が始まる前の2008年9月23

日~12月8日に、カナダ・オンタリオ州の8カ所の第三次医療機関(大学病院6施設:310~400床、市中病院2施設:256~400床)の救急部門、内科部門、小児科部門にフルタイムで勤務する看護師446人で、平均年齢は36.2歳、94%が女性でした。登録した看護師を、無作為に、個々人の顔にフィットすることが十分に確認されたN95マスク(221人)またはサージカルマスク(225人)に割り付けました。2009年1月12日~4月23日の追跡期間に、インフルエンザを発症した看護師は、サージカルマスク群50人(23.6%)、N95マスク群48人(22.9%)で、有意な差を認めませんでした。この結果は、インフルエンザの感染に関わる飛沫のサイズがサージカルマスクでほぼ防げるレベルであることを示唆しています。ただし、著者らは、日常診療ではサージカルマスクで十分だが、気管内挿管や気管支鏡検査などエアロゾルを発生するリスクの高い手技を行う場合には、N95マスクの使用が賢明だろうと述べています。

今後、我が国でも新型インフルエンザが拡大し、N95マスクの不足が懸念されますが、この研究成果はとても重要なメッセージになると思います。

JAMA. 2009;302(17):(doi:10.1001/jama.2009.1466).

ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。

くまびょうNEWS55号から継続して掲載されています。

国立病院機構熊本医療センター ホームページアドレス <http://www.hosp.go.jp/~knh/>

いま、国立病院機構  
熊本医療センターで  
何が研究されているか

シリーズ 40回

## 大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術の検討

心臓血管外科 片山 幸広



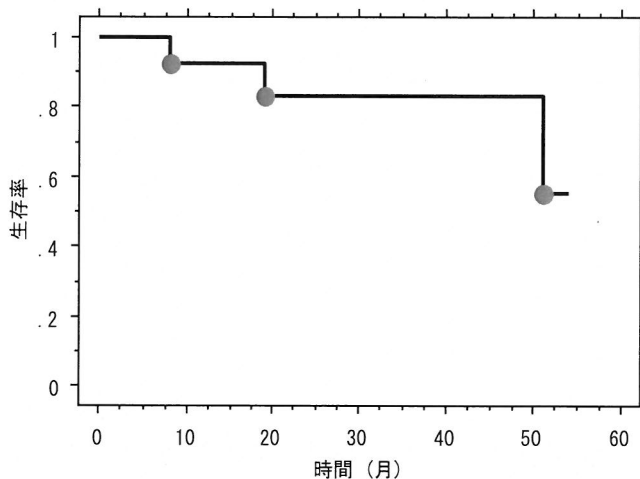
高齢化に伴い心臓血管外科分野でも高齢者の大動脈瘤症例が増加してきました。様々な併存症を持ち予備力の低下した胸部大動脈瘤患者に対して、人工心肺を用いた人工血管置換術を行うことは合併症による手術死亡率も高く、また術後のADLも低下してしまうこととなります。

1990年にParodiによって初めて腹部大動脈瘤に対しステントグラフト内挿術が施行されて以来、多くの臨床研究が展開され大動脈瘤に対する新たな治療手段として広まりつつあります。

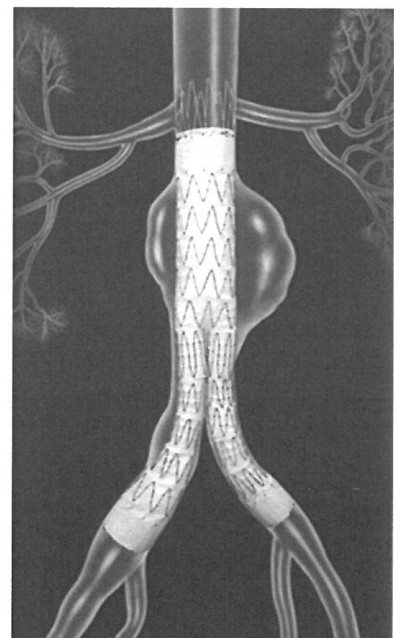
当院でも2004年より胸部大動脈瘤に対する自作のステントグラフト内挿術を行ってきました。これまでに経験した16症例を検討しました。平均年齢は74歳で11例が男性でした。遠位弓部大動脈瘤症例が12例、胸部下行大動脈瘤症例が4例でした。手術時間は平均160分で、当院でこれまで施行した遠位弓部～下行大動脈瘤の開胸人工血管置換術が平均420分ですので極めて短時間であることがわかります。開胸や人工心肺を施行しませんので輸血量もMAPのみ平均0.75単位（開胸人工血管置換術ではMAP平均10単位、FFP平均10単位、PC平均18単位）とほとんど必要とせず低侵襲

の治療と言えます。そのため術後在院日数も15日（開胸人工血管置換術では平均27日）と短縮でき、全例軽快退院しております。開胸人工血管置換術に比して長期成績の報告がないことが本治療の欠点ですが、遠隔期もこれまで最長4年経過観察しておりますが、大動脈瘤関連による死亡は1例のみです。

ところで、本邦では平成19年1月に腹部大動脈瘤に対する企業製造ステントグラフトが保険収載されました。Cook社のZenith、Gore社のExcluder、Endologix社のPowerlinkと3種類です。当院も実施認定施設となり、今年5月より3例の腹部大動脈瘤に対して企業製造ステントグラフトの内挿術を施行しました。79～85歳の症例に対して全例Zenithを使用し、手術時間平均170分、全例無輸血で施行できました。開腹しませんので術翌日より食事・歩行可能で創部の疼痛もなく、術後14日目に退院されております。これまで手術不可能であった高齢者や開腹歴、心・肺合併症患者、その他様々な併存症を持った患者でも施行できる可能性があります。他疾患治療中で腹部大動脈瘤を認めましたら、ぜひとも御紹介頂きたく申し上げます。

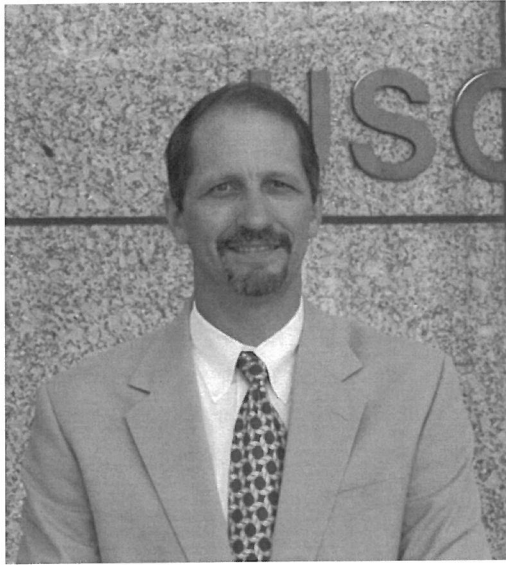


胸部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術  
Kaplan-Meier法による生存曲線



Cook社 Zenith

# 南カリフォルニア大学外科学准教授ジュフリー・ヘーゲン先生のご来熊



国立病院機構熊本医療センターでは、研修医・レジデント教育のため、南カリフォルニア大学外科・ジェフリー・ヘーゲン准教授をお招きして、下記の研修を行います。南カリフォルニア大学病院は、全米の病院ランキングで常に上位に位置する有名な病院です。同病院の外科は、世界でも有数の食道外科の手術症例数を誇っており、ヘーゲン先生はその部門の責任者を務めています。また、ヘーゲン先生は南カリフォルニア大学病院全体のレジデント教育の責任者として、医師卒後教育に尽力されています。ヘーゲン先生の当院への訪問は3回目ですが、今回も喜んで当院での研修を引き受けていただきました。

なお、11/9と11/11の講演会は、外部の方も出席できます。ヘーゲン先生の腹藏ない話で、アメリカの医療を肌で感じるができると思いますので、奮ってご出席

ください。出席希望の方は、下記までご連絡ください。

また、症例検討会 (Small group discussion) 及び縫合実習 (Skills lab) も、外部の研修医または医学生の方に、数に限りはありますが、参加していただくことができます (定員各2名、先着順)。参加希望の方は、希望日・所属・氏名を記入の上、下記までご連絡ください。

(臨床研究部長 芳賀 克夫)

## <連絡先>

国立病院機構熊本医療センター 庶務係長 鶴見肇之 (つるみとしゆき)

Tel: 096-353-6501 Fax: 096-325-2519

E-mail: tsurumi@kumamoto.hosp.go.jp

## <日 程>

11月8日 (日)

- ①13:30~15:00 症例検討会
- ②15:00~18:00 縫合実習

11月9日 (月)

- ③14:00~16:00 症例検討会
- ④16:00~17:00 病棟回診
- ⑤18:30~20:00 講演「南カリフォルニア大学におけるレジデント研修について」

11月11日 (水)

- ⑥14:00~16:00 症例検討会
- ⑦16:00~17:00 病棟回診
- ⑧18:30~20:00 講演「南カリフォルニア大学病院/ロサンゼルス・カウンティ・ホスピタルでの緊急手術の経験から」

11月12日 (木)

- ⑨14:00~16:00 症例検討会
- ⑩16:00~17:00 病棟回診

## 研修医レポート

### 臨床研修医

1年次 ふたくち 二口 よしき 芳樹



はじめまして。4月から2年間研修医として国立病院機構熊本医療センターでお世話になることになりました。鹿児島大学を卒業しまして、地元の熊本で研修をしたいと思ひまして、救命救急で県内一有名であるということでこの病院を選ばせていただきました。現在研修医1年目は17人おり、始めの1年間は外科系半年間と内科系半年間の研修システムになっています。私は本年度の前半は外科系を回り、後半は内科系を回ります。この半年間で、麻酔科、救命救急部、外科の研修をさせていただきました。

まず、麻酔科では手術の麻酔導入から術中の全身管理を経験しました。麻酔導入では全身麻酔や脊椎麻酔

から挿管までを幅広く学び、また手術中における麻酔において考えることなど多くを教えてくださいました。そして救命救急部では毎日救急車で運ばれてくるいろいろな患者さんに対してまずどういうことを考え、どういう処置をし、どういうことに気をつけなければいけないかなどから学ばせてもらいました。そして入院後の治療や手技なども何もわからない自分に怒りもせず、優しく指導していただきました。そして現在は外科を回っており、呼吸器、消化器、肝胆脾などの幅広い症例を経験させていただいております。また大きな変化として2009年9月22日には新病院に移動し、とても快適な空間で仕事をさせてもらっています。

この病院の研修としては救急外来も月に3回ほどあり、たくさんの方々の経験ができ、指導医の先生は優しく指導してくれるので研修するにはとても良い環境にあると思います。この半年間で医師として本当に楽しく充実した経験をさせてもらい、この病院を選んでよかったと実感しております。研修としてはまだまだ先は長く、上級医の先生方にはたくさん迷惑をかけることもあると思いますが今後ともよろしくお願ひいたします。

### 臨床研修医

1年次 みぎた 右田 まさこ 雅子



平素より大変お世話になっております。研修医1年目の右田雅子と申します。平成21年3月に北九州の産業医科大学を卒業し、4月よりここ国立病院機構熊本医療センターにて2年間初期研修をさせていただきます。6年ぶりに熊本に帰ってまいりまして改めて故郷で働けることの喜びを毎日かみしめております。一年目は大きく分けて半年づつ外科系と内科系コースにわかれ研修します。私ははじめ外科系コースをローテートし外科、麻酔科、救命救命部の研修を終えました。外科では毎日手術に入り数多くの手術を手伝わせていただきました。消化管腫瘍、虫垂炎、ヘルニア、胆石をはじめ、長時間要する食道再建、PD（膵頭十二指腸切除術）も経験させてもらったのに加え、忙しい毎日の業務のなかで私たち研修医へ暖かく、熱心に指導をしていただき外科の先生方のパワフルさに日々驚かされる毎日でした。外科を研修するにあたってチームワークの大切さを学ばせていただきました。

次の麻酔科では毎日2、3例の手術に加え、緊急手術にも入らせてもらい計2ヶ月で150例近く経験させていただきました。前日の術前診察から始まり、麻酔

の導入、維持、覚醒、と一連の流れを担当の先生と一緒にいきます。はじめは手術室の迅速なスピードについていくことができず、また術中の患者様の全身管理を行うという大きな責任に不安とプレッシャーを感じていましたが、丁寧な先生方の指導も甲斐あってバイタルの変動にも慌てず対処を行うという自信がついたように思います。ミスなく素早く、それでいて手術を行うことに不安を感じている患者様をリラックスさせるという医療を行うにあたってとても大切な対人術も学ばせていただきました。

救命救命部では毎日救急外来で救急搬送されてくる患者様の受け入れを行いました。当院の救急車受け入れ台数は年間8000台、CPA、AMI、sepsis、多発外傷と重傷例も圧倒的な数を誇るだけあって次から次へと様々な方が来られ現場は時折パンク寸前であることもよくありますが、麻酔科で学んだことを思い出し、患者様に話しかけ緊張をとりながらも迅速にバイタルや所見を取るよう心がけました。そんな中で救命救命部の先生方はどんな時も断ることなく受け入れ、的確に現場指示を出し、礼節を忘れず対応されているのを見てこれこそ救命であると感銘を受けました。

10月からの半年は内科系コース消化器内科、血液内科、神経内科を回らせていただきます。先生方・メディカルの方々にご迷惑をおかけすることも多々あると思いますが、日々精進してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。



# 研修のご案内

## 第5回 二の丸肝臓談話会

〔日本医師会生涯教育講座3単位認定〕

日時▶平成21年11月2日(月)19:30~21:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

【情報提供】「PEGインターフェロン $\alpha$ -2b製剤」

座長 七城木村クリニック院長 木村 圭志

【特別講演】「薬剤性肺臓炎について~IFNを含めて~」 国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科医長 柏原 光介

【一般講演】「IFN治療患者の情報共有への取り組み」 植木町国民健康保険植木病院外来主任看護師 中川 理恵

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、ご持参頂きますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター消化器内科医長 杉 和洋 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

## 第130回 月曜会(無料)

(内科症例検討会)

〔日本医師会生涯教育講座3単位認定〕

日時▶平成21年11月16日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1. 呼吸器内科による胸部X線写真供覧 国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科医長 柏原 光介

2. 持ち込み症例の検討

3. 「眼球運動障害をきたした1例」

国立病院機構熊本医療センター神経内科 西 晋輔

4. ミニレクチャー「骨髄異形成症候群について」 国立病院機構熊本医療センター血液内科医長 長倉 祥一

日頃、ご疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参頂きますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

## 第62回 特別講演(無料)

〔日本医師会生涯教育講座5単位認定〕

日時▶平成21年11月18日(水)19:00~21:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長 熊本県医師会理事 水足秀一郎

「肝臓病診療の最近の話題」

熊本大学大学院医学薬学研究部消化器内科学教授 佐々木 裕

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代表) FAX:096-352-5025

## 第99回 三木会(無料)

(糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会)

〔日本医師会生涯教育講座3単位認定〕

日時▶平成21年11月19日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 『自殺企図で大量のインスリンを自己注射し低血糖発作を起こした2型糖尿病の1例』

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

橋本憲蔵、花谷聡子、児玉章子、高橋毅、豊永哲至、東輝一朗

2. 『糖尿病ケトアシドーシスを起こし入院したKlinefelter症候群合併2型糖尿病の1例』

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

太良史郎、花谷聡子、児玉章子、高橋毅、豊永哲至、東輝一朗

3. 『血糖コントロールが困難であった妊娠糖尿病の1例』

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

花谷聡子、児玉章子、高橋毅、豊永哲至、東輝一朗

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、ご持参頂きますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一朗 TEL 096-353-6501(代表) 内線5705

## 第101回 救急症例検討会(無料)

日時▶平成21年11月25日(水)18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

症例検討「脳血管疾患」

国立病院機構熊本医療センター脳神経外科医長 大塚 忠弘

国立病院機構熊本医療センター神経内科医長 田北 智裕

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急救命士、救急隊員、事務部門等全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表) 内線2630 096-353-3515(直通)

# 2009年 研修日程表 11月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

11月	研修センターホール	研修室	その他
2日(月)	19:30~21:00 第5回 二の丸肝臓談話会 [日本医師会生涯教育講座3単位認定]		8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 外来
4日(水)			17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
5日(木)			7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 内分泌代謝内科カンファレンス C2
6日(金)			8:00~8:45 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
9日(月)			8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 外来
10日(火)			15:00~18:30 外科術前術後症例検討会 C1 16:30~18:00 血液病懇話会 C2 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2 18:30~21:00 泌尿器科・放射線科合同プログラム C1
11日(水)			17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
12日(木)	19:30~21:30 歯科領域における救急蘇生法講座 講師 国立病院機構熊本医療センター麻酔科 宮崎 直樹	19:00~20:30 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会(研2)	7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 内分泌代謝内科カンファレンス C2
13日(金)			8:00~8:45 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
14日(土)	13:30~17:00 第77回 ナースのための救急蘇生法講座 講師 国立病院機構熊本医療センター麻酔科部長 江崎公明 他		
16日(月)	19:00~20:30 第130回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]		8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 外来
17日(火)			15:00~19:00 外科術前術後症例検討会 C1 16:30~18:00 血液病懇話会 C2 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
18日(水)	19:00~21:00 第62回 特別講演 [日本医師会生涯教育講座5単位認定] 座長 熊本県医師会理事 水足秀一郎 「肝臓病診療の最近の話題」 熊本大学大学院医学薬学研究部消化器内科学教授 佐々木 裕		17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
19日(木)		19:00~20:45 第99回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定] 19:30~21:00 有病者歯科医療研究会(研3)	7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 内分泌代謝内科カンファレンス C2
20日(金)			8:00~8:45 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
24日(火)	19:30~21:30 臨床口腔外科講演会 座長 熊本県歯科医師会副会長 上田 忠 「熊本医療センター歯科口腔外科における口腔外科疾患」 国立病院機構熊本医療センター歯科口腔外科医長 中島 健	18:30~20:30 血液研究班月例会(研2) 19:00~21:00 小児科火曜会(研1)	15:00~19:00 外科術前術後症例検討会 C1 16:30~18:00 血液病懇話会 C2 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
25日(水)	18:30~20:00 第101回 救急症例検討会 「脳血管疾患」		17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
26日(木)	18:30~20:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会(研2)	7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 内分泌代謝内科カンファレンス C2
27日(金)			8:00~8:45 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
30日(月)			8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 外来

研1~3 2階研修室1~3 C1 3階カンファレンスルーム1 C2 3階カンファレンスルーム2 5西 5階西病棟 外来 小児科外来 6北 6階北病棟 消 消化器病センター読影室 手術室  
問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター 2階地域医療研修センター  
TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)